三条北ロータリークラブ週報

まことの幸福は人助けから

Real Happiness is Helping Others

国際ロータリー会長 クリフォード L.ダクターマン 第2560地区ガバナー 栗山 清

例会日
1992. 11 . 9
累 計 No 292
当 年 No 17

会 長／高 橋 彰 雄
幹 事／村 山 誠 一
SAA／佐 藤 義 英

例会日／火曜日 PM12:30～1:30
例会場／三条ロイヤルホテル ☎34-8111
事務局／三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

行　　事： 三クラブ合同例会

出席リフ 83/90

例 会 日 時　1992年11月9日（月曜日）PM6時30分より

場　　所　ハミングプラザ　VIP

例　　会	18:30	開会点鐘	三条南	佐藤会長
		ロータリーソング		
		会長挨拶	三条南	佐藤会長
		記念卓話	三条南初代会長	金子六郎氏
懇　親　会	19:00	開宴の挨拶	三条北	高橋会長
		乾杯の音頭	新潟第4分区代理	梨本清一
		「手に手つないで」		
		閉宴の挨拶	三条北	高橋会長
	20:30	万歳三唱	三条	内山会長

会長挨拶： ホストクラブ会長挨拶　三条南ロータリークラブ会長　佐藤英二

ご挨拶の前に、お礼を申上げます。10月30日の私共南クラブの25周年記念コンサートで、三条クラブ、三条北クラブのご後援を賜り、チケットの販売にも多くの皆様のご協力で、お陰様で楽しいコンサートとなりました。この席をお借りして、心より御礼申上げます。

本日はあいにくの冷い雨にも抱わらず、150名近くのご出席であります。

昨年初めて、三クラブ合同例会が、三条クラブのホストで行われました。今年は当番で、私共南クラブがお世話役をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

また、本日の卓話を南クラブの初代会長でいらっしゃいます金子六郎さんに、お願いいたしました。お楽しみにお聞き下さい。

日本で最初のロータリクラブであります東京クラブが出来ましたのが、大正9年であります。その8年後の昭和3年に、米山梅吉ガバナーのもとで、日本で初めて地区大会が京都で開催されまし

た。

その地区大会で、京都の土岐市長さんが、歓迎の挨拶を述べられました。その挨拶に、「春の海　ひねもすのたり　のたりかな」という蕪村の有名な句をもじって、「ひねもす　ロータリー　ロータリー」と洒落れてご挨拶をされ、万場の喝采を浴びたということであります。

今宵は私共も、京都の地区大会にあやかって、「春の海」とはまいりませんが、春の如く暖い友情にあふれたこの会場で、「ひねもす　ロータリー　ロータリー」と楽しく、和やかにご歓談いただければ幸いでございます。

本日は、ご参会ありがとうございました。

卓　　話：　三条南ロータリークラブ　金子六郎

金子二等兵の見た北方領土

気象

1冬の海　怒涛の中の輸送船

2吹雪　　ルチャル原の吹雪

3短かい春夏　百花咲き乱れる　台上の歩哨

産物

世界の三大漁業地

だまして取られた択捉島

1敗戦　ソ連兵上陸　スコーラダモイ東京

3シベリヤの捕虜　収容所列島　ぬけないソ連への不信感

金子二等兵の見た北方領土

気象　　冬の海

怒涛の中の輸送船

昭和19年すでに敗色の色濃い2月はじめ、新潟県中心に大きな動員令が下った。新発田と仙台に集結し準備を整え北海道に渡り両部隊は前後して小樽市に集り全市に民宿した。私は教育召集後2度目の召集で陸軍二等兵としてこれに加わっていた。我々を北方の守りとして千島列島に配属するためであった。既に日本海軍は制海権を失っており、海上輸送に米国の潜水艦の潜望鏡を逃れるため大暴風の怒涛を待っていた。待つこと半月大嵐が来た。仙台部隊は第1船団、我々新発田部隊は第2船団、小樽港を出港した。波頭に乗った1万トン級の輸送船の船底の半分がみえスクリューが空転する。我々の船は枯葉のように波に玩弄された。すぎること数日、仙台の第1船団は潜水艦の魚雷を受けて今沈没の報が暗い船倉にうずくまる我々の耳に入った。冬の北海の海は落れば1分間は生られないという。全く生きた心持はしない。右に逃げ左に逃げ何とか潜水艦の攻撃を逃れて択捉島の浅瀬に逃げ上った。

仙台に集結した三条の知人の多くが亡くなられた。神明町医師外山直市先生のご長男も軍医将校

として参加されたが、その時に北海の海に水没、戦死された。

吹雪　ルチャル原の吹雪

猛吹雪のつづく毎日択捉島の海岸に我々の部隊は天幕を張り、そこに生活し沖の船からの荷物の陸揚の作業がつづいた。小型陸揚舟と陸に渡した板から荷物もろとも海に落ちてもすぐ陸に這い上れば海水は服に浸み込むまいに氷の珠になってしまうそんな寒さであった。我々兵隊が生活する天幕舎は休むことなく吹き荒れる吹雪で全く雪の中に埋もれた。数日後に金子二等兵にも不寝番の当番がまわってきた。雪の中に埋れた中隊の数個の天幕を巡回するのが任務だった。

自分の入っていた天幕を出て銃を片手で頭の上に差し揚げ、いま一方の手で身長以上に積った雪をラッセルして進む。追い風で猛吹雪はうしろから吹きつける。何とか各天幕舎を巡回し戻ろうとして後を振りかえると今ラッセルして来た跡は吹雪で完全になくなっていた。前方から吹く向い風で方向を見失い、感をたよりに雪をこぎ分けてすすむ。帰る自分の天幕舎を見失い寒さと吹きつける吹雪の中で立ったまま途方にくれた。その時、「不寝番、不寝番」と呼ぶ声が右の方向にきこえた。その声に勇づけられ声のした方向に雪を分けてすすむ。さがす天幕舎はない。耳をうたがい反転して左の方向にすすみはじめたら、又不寝番と呼ぶ声が右の方向にきこえた。よろこび勇気をふるってその声の聞こえた方にすすむ。天の助け、めざす天幕舎があった。

命びろいした。母が千葉県の成田の不動様に月まいりし、お百度をふんで頂いたお守り様が割れていた。私はいまでも毎年成田のお不動様におまいりを続けている。

択捉島の短かい春夏

台上の歩哨

択捉島の桜前線がくるのは７月中旬。吹雪の島にもおそい春と夏がいっしょに来る。この島も北海道北辺の利尻島礼文島と同じ北緯45度くらいと思う七月の礼文島は花の浮島。択捉島でも高山植物がいっせいに開き百花咲き乱れる。

太平洋を望む台上で歩哨の任務につく。足もとは一面に芝いっぱい。頭の上の空で鷲が輪を描いて舞い、目の前の海上を浮き沈みして逃げる鯨を追いかけて鰊の大群が海面に跳び上る。長い長い海岸線の砂浜に無数のトドがねむそうにころがっている。長いコンブが幾筋もどこまでもどこまでも延びている。

嵐の海、吹雪の択捉も夢のような季節だ。短い、短い、春夏の期間だ。

産物　世界の三大漁業地

「にしんきたかと鴎にきけば私しゃ発つ鳥波に聞け」ソーラン節の一句だ。鰊の大群が来ると雄魚のだす白子で大海原の海面が広く一面に白く濁ると聞いている。千島の海は世界の三大漁業地だと教えられている。千島の海は魚類、蟹、ウニ、コンブ、海獣、海産物の宝庫だ。季節になると択捉島の川にも鮭が産卵のために上って来る。重りあって上って来る鮭の間に棒をたてると、しばらくの間鮭の群にはさまれてその棒は倒れない。私が勤務した炊事場の側の沼にもそこから流れる川

に鮭の大群が上って来る。冬になると北海道に帰る孵化場の漁師達が沼に網を引き、引上げた大変の数の鮭が逃げないように頭の急所を棒で叩いてゆくと、後につづ漁師が卵だけ入物に採って引上げてゆく累累たる鮭にすかさず飛んで来たどう猛な色丹鳥の群がたちまちきれいにたいらげてしまう。海岸では我々のスキーのストックでいくらでも大きな蟹がとれる。部隊長の命令で、主食の米は将来に備えて食いのばし、貯蔵せよ、その代食は鮭又は蟹にせよ、１匹ものの鮭を竹竿にさして火で焼いて食う。蟹飯は一度食うと鼻につく。いっぺんで食欲はなくなる。鮭や蟹は金を払って切身を味ってこそうまい。千島の魚や海産物は日本の宝だ。

ソ連に騙し取られた北方領土　スーラダモイ東京

昭和20年８月15日終戦をむかえた８月の末、ソ連の兵隊が少数で恐る恐る上陸して来た。そして我々に、君達はスコー東京ダモイ、すぐ日本に帰す、君達が帰る日本の本土は永い戦争で全く疲弊のどん底で、着る物、食物は全くない。君達の兵器はソ連に引渡し、その他食糧や衣類は全て日本に持ちかえり、本土の親兄弟を助けてやって欲しい。急ぎ全員で君達が山の奥深く匿し貯蔵しているものを、君達が帰る船にすぐ積み込まれるよう山奥から持出して集積して欲しい。我々は一変に彼等に対する敵愾心はからりと晴れ、ソ連の温い情に感激した。

択捉島に上陸以来、毎日夜を日についで、兵隊１人日当り米俵１俵外にカンパンの箱程度１個を責任量として川を渡り、崖をよじ登り、死ぬおもいで苦痛に耐えて山奥に集積した兵器食糧被服を、本土に帰れる嬉しさに、その重労働をものともせず海岸に集めてその作業を完了した。

いよいよ我々に本土帰国の乗船命令がきた。彼等は又我々に貴方の帰りを待っている故郷の父母兄弟姉妹に貴方が持てるだけの被服そして甘味品を持ち帰って喜ばせてやって下さいと、我々は生きて故郷に帰れる嬉しさ、喉から手の出る程ほしい、キャラメル、練ミルクを持てるだけ持ち、欲も手助い身につけられるだけの被服を身につけて、船に乗れば明日にでも会える肉親に思いをはせて、歩きに歩いて、つんねい港（連合艦隊がハワイ攻撃に向う時の全艦隊の集結港）に着いた。我々を乗せる大きな船が待っていた。沸き上がる感激を胸いっぱいに、大勢の兵隊が港の広場に並ぶ。

ソ連としては限られた船で一時も早く１人でも多くの兵隊を日本に帰したい。限られた船倉に兵隊１人で多くの荷物を持ち込めば３人乗れるところ１人か１人半しか入れない。ソ連は君等を一刻も早く１人でも多く君達を日本に帰国させたいと思う。ソ連の意向を理解してほしい。それで兵隊１人当り雑嚢（ノウ）に入る程度の日用品外に外套（夏物か又は冬物）だけ持ち込んでよろしいと。

急な変更に不審に思ったが、１人でも多く帰したいという実状を現解し、折角汗を流して持って来た品物を後髪をひかれる思いで、広場の１ケ所に持参品を山と積んで、用意された輸送船に何の不審もいだかず乗船した。明日でも会える肉身の顔、なつかしい故郷の山川に思いを走せて皆が広い甲板を自由に歩きまわった一夜明けて船は北海道の稚内港でなく樺太の大泊港に着いた。連絡事項を受領に将校全員が下船した。約一時間くらいで将校は又乗船して来た。不思議に下船前まで軍

人の誇りとして許していた軍刀は再度上船して来た将校の腰にはなかった。又我々に命令が下った。通達事項があるので急ぎ全員甲板より船倉に集合と。我々全員は急ぎ船倉に下りた。とたん甲板のハッチは堅く閉ざされ、ハッチの入口に機関銃がすいつけられた。万事休す。やられたと肝をひやした。それからいままで自由に使用を許された便所はソ連兵の監視の中で一人ずつ許可された。

昨日も今日も船の進行方向にいつまでも陸地が見えていた。だまされた。船は間宮海峡を北に北にと進んでいた。

スコラ―東京ダモイ。すぐ日本に帰すにだまされて、無念にも我々は全くの無抵抗でシベリア送りになった。ソ連は我々をだまして北方領土を手に入れた。

拭いきれないソ連への不信感シベリアの捕虜　収容所列島

捕虜生活も明けて二年目の春、毎日零下二十度くらいの日が続く。我々が上陸した北の端のソウガワニノ港から遠くに北樺太の雪を頂く白い山の峰が見える。或る朝港に通ずる鉄道に長い貨物列車がついた。何百人のソ連人が破れた靴、寒そうな衣類を身につけ、軍用犬がついて肩から軽機関銃をさげたソ連兵に監視されて貨車から下りて来た。

密告によって捕えられた同じソ連人、一党独裁の国、共産党批判した者が政治犯として、ソ連の国内にもおかれないで、この港から、さらに北の小さな島に送られると聞かされた。終生帰ることの出来ない人、大切な命がその島でつきる人達、ソ連の小説家ソリデニチェン氏の小説、収容所列島はこれを書いたものだ。平気でウソをつき、人をだまし、密告で大衆をしばる。ソ連は恐しい国だ。

終生私の胸からソ連の不信は消いない。北方領土をだまして取ったソ連。択捉島が日本に戻った時、少しはソ連への私のわだかまりは薄れるかもしれない。

開宴挨拶　　三条北ロータリークラブ　高橋龍雄

昨日（11月８日）柏崎クラブの創立40周年記念式典に出席してまいりました。チャーターメンバーの高橋さんが創立当時を振り返って苦労話をされました。今程は南クラブの大先輩の金子さんから人生の苦労話をお聞きし、私のおじさんも金子さんと同じ部隊で北方警備に当たって居りシベリアに捕虜として抑留されたことを思い出し年輪の深さをしみじみと感じさせられました。当北クラブはようやく小学校を卒業し中学に入学することになりました。これも偏えに三条クラブ、南クラブさんのお陰と感謝申し上げます。これからは今日の合同例会を契機として、より情報を交換し合い、協力し合ってより地域社会に貢献してゆきたいと思って居ります。その為には先ずもって親睦を深めることが大事だろうと思います。大いに飲み、大いに語り合って親睦の輪を広げたいと思います。簡単ですが開宴の挨拶とさせて頂きます。

11月17日例会：　クラブアッセンブリー

11月24日例会：　ロータリー財団月間につき

SANJO NO
JAPAN
SANJO SOUTH
JAPAN